

第7章 BSPとLTIBを使用して、パソコン1台で簡単にLinuxを構築できる

Power Architecture系ターゲット・ボード 「P2020RDB」にLinuxを構築する方法

西山 雄二

ここでは米国 Freescale Semiconductor 社の Power Architecture 系プロセッサである QorIQ シリーズの P2020 に Linux を構築する方法を解説する。構築に際しては第4章で解説した LTIB を用いるため、簡単に作業を行える。
(編集部)

1. QorIQ P2020 搭載 ターゲット・ボード

本稿では、Power Architecture 系プロセッサ「P2020」に Linux を構築する方法を解説します。

今回使用した CPU は、QorIQ (コアアイキュー) の P2020

です。通信やプリンタなどの産業機器をコントロールする市場などで高い支持を得ている、米国 Freescale Semiconductor (以下 Freescale) 社の Power Architecture 系プロセッサ・シリーズの CPU です。QorIQ とは、基礎技術 (コア) とマルチコアへのインテリジェントなアプローチ (IQ) の融合という意味を込めたブランド名です。

P2020 プロセッサ用評価用ボードは、Freescale 社から

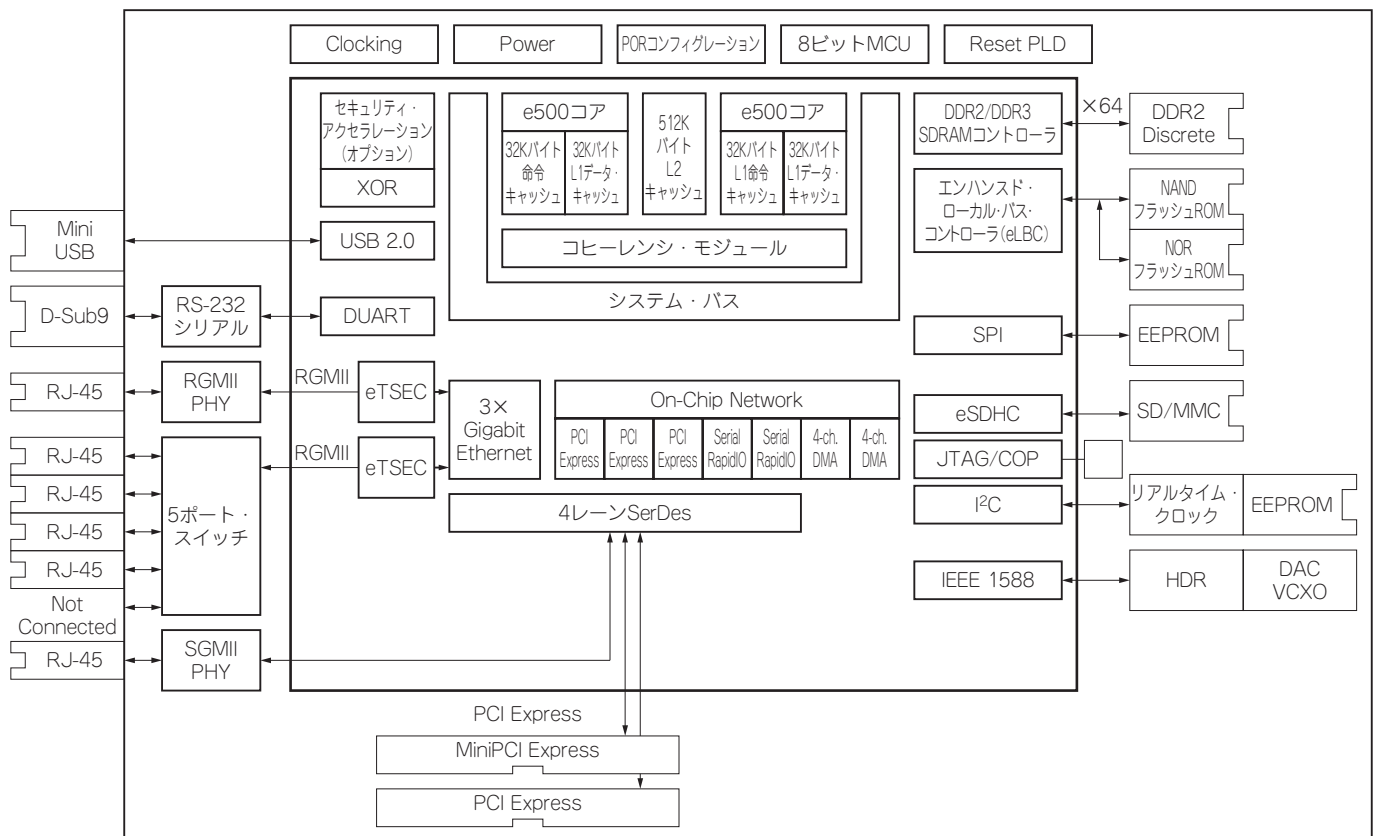


図1 P2020RDB の構成